

令和7年度現地視察 開催報告

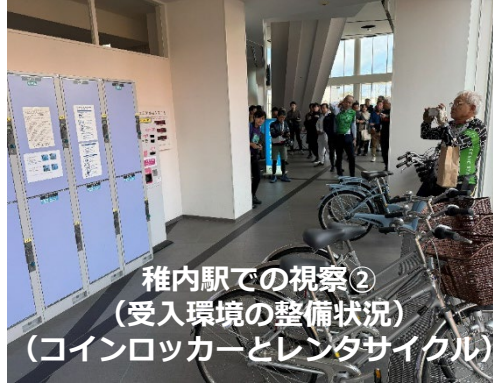
令和8年2月27日
北海道サイクルルート連携協議会アドバイザリー会議

現地視察 開催報告

R7年度 現地視察の概要：現地試走会および意見交換会（きた北海道ルート）



稚内駅での視察①
(情報発信)



稚内駅での視察②
(受入環境の整備状況)
(コインロッカーとレンタサイクル)



稚内フェリーターミナル
での視察①



稚内空港での視察①
(サイクルラック)

- ・市内外からの玄関口として重要な結節点であり、サイクルマップの配布や、レンタサイクルの貸し出し等、既にサイクル拠点としての役割を果たしている。
- ・これまでにレンタサイクルの運用実績があり、鉄道利用者が到着後すぐに自転車へ乗り換えられる環境が整っている。

- ・稚内フェリーターミナルでは、サイクルラックが設置されており、フェリー利用者が自転車を安全に保管できる環境が確保されている。
- ・稚内空港では、ウッドデッキおよびサイクルラックが整備されており、空路利用者が到着後に自転車を活用できる環境が整っている。



メクマ駐車帯



白い道



宗谷丘陵地



BASE SOYA

- ・メクマ駐車帯では、海側の拡幅や景観向上を目的とした電柱の地中化が進められており、ドライブ利用者のみならずサイクリストにとっても安全で快適な滞留空間となっている。
- ・白い道は、宗谷地域を代表する景観の優れた観光スポットであり、近年はSNS等を通じて高い注目を集めている。

- ・宗谷丘陵地は、広大な丘陵景観を望むことができる拠点であり、個人旅行者や滞在型観光への対応強化が図られている。
- ・宗谷岬およびBASE-SOYAでは、レンタサイクルの提供に加え、ガイド付きツアーが実施されており、初心者や観光目的の利用者でも安心してサイクリングを楽しめる環境が整っている。

現地視察 開催報告

R7年度 現地視察の概要：現地試走会および意見交換会（きた北海道ルート）

(1) 日時 令和7年9月30日（火）10:00~11:30

(2) 場所 稚内商工会議所 産業交流センター 研修室
（北海道稚内市中央2丁目4番8号）



(3) 議事概要

① 議事次第

1. 開会 10:00~10:05
2. 議事
 - (1) きた北海道ルートの活動概要 10:05~10:20
 - ・きた北海道サイクルツーリズム連絡会議：杉川様、栗原様、畑中様
 - (2) 意見交換 10:20~11:20
 - 【アドバイザー会議委員】(10:20~10:50)
 - ・高橋委員、加藤委員、萩原委員、宮内委員、屋井委員、吉井委員
 - 【ルート協議会】(10:50~11:20)
 - ・石狩川流域圏ルート協議会
 - ・北海道TOKACHIサイクルツーリズム推進協議会
 - ・オホーツクルート協議会
 - ・オロロンライン・サイクルルート連絡会議
 - ・道南サイクルツーリズム推進協議会
 - ・きた北海道サイクルツーリズム連絡会議
 - (3) その他 11:20~11:25
3. 閉会 11:25~11:30

② 開会挨拶

● 北海道開発局
道路計画課 村上課長

【開会挨拶】

現地でご尽力いただいた、きた北海道ルート、及び稚内の皆様にご心より感謝申し上げます。

今回のルートは初めて自転車で走りましたが、路肩の状態も良く、稚内開建の道路管理にも感謝申し上げます。

白い道も改めて魅力を感じ、絶景ポイントをさらにPRしていただければと思います。一部、進行方向が分かりづらい箇所がありましたが、案内があればより安心できると感じました。

帰路のアクティブバスでは夕日の撮影もあり、これもPRに活用できるのできるだろうと思いました。

意見交換会参加者：49名

司会：北海道開発局
道路計画課
上村道路調査官



意見交換会概要

(3) 議事概要

③きた北海道ルート¹の活動概要について

●きた北海道サイクルツーリズム連絡会議

杉川氏



2-1. TEPPEN-RIDEの概要

旭川駅をスタート、北海道最北のてっぺんである宗谷岬を目指すサイクリングイベント
大雪山や利尻富士などの北海道らしい風景を楽しみながら、3日間で約315kmを走り抜ける旅
参加者は地元グルメや地域住民との交流も体験できる

■コースプログラム
Day1 旭川駅 <Start> → 花巻町 (昼食) → 名寄町
★ 夕べウェルカムパーティー (夜間) → 名寄町
Day2 名寄町 (昼食) → 網走町 → 中川町
★ 夜 味噌料理を学ぶ夕飯会 (夜間) → 中川町
Day3 中川町 (昼食) → 稚内町 (宗谷岬) → Goshob
★ 夜 TEPPEN-PARTY <終了場所>

今年で
8回目 開催!
(7シフトサイクリングルート)を
目指し、毎年開催

3-1. きた北海道サイクルツーリズムシンポジウム

きた北海道サイクルルートのナショナルサイクルルート指定を目指し、きた北海道地域全体でサイクリングの裾野广さを改めて共有、これらのサイクルツーリズムを広く一般住民と考えることを目的に開催
・市町村の各首長とともに有識者の講演やパネルディスカッションなどの様々なプログラムを開催

■シンポジウムチラシ
きた北海道サイクルツーリズム
7/3 14:00-18:00
会場: 旭川市立旭川市民会館

■開催状況
シンポジウム開催の様子

3-2. “道北版スイスモビリティ”実現へ向けた様々な挑戦

Road/River/Rail → R3というコンセプトによる、日本のてっぺんを目指す旅、アクティビティの開発

挑戦! R3モニターツアー
旭川から宗谷岬までのサイクリング体験
旭川から宗谷岬までのサイクリング体験

挑戦! サイクルバスによる観光ツアー
旭川から宗谷岬までのサイクリング体験

挑戦! サイクルトレインの実証実験
旭川から宗谷岬までのサイクリング体験

4-3. (提案)広域連携による“Hokkaido Velo”

各ルート協議会にはシーニックバイウェイの関係者が多くことから、シーニックバイウェイ指定ルートとサイクルルートを結びつけることで、“Hokkaido Velo”の実現を図る

■実現のための取組イメージ
シーニックバイウェイ
関係機関と連携
各ルート協議会
サイクルルート
“Hokkaido Velo”を提案

【ルート概要】

きた北海道ルートは、全区間が舗装されており、サイクリストが快適に走行できる縦断勾配によって構成されている。直線路に加えて、カーブやアップダウンもあり、初心者～上級者までが楽しめる起伏に富んだコースである。また、田園地帯や酪農地帯や利尻富士などの美しい自然から構成される景観や、アクティビティや文化財も豊富である。旭川から、日本のてっぺんである宗谷岬まで、ストレスフリーで駆け抜けることができる特徴を持つ。

【地域の特徴的な取組】

・TEPPEN-RIDEの実施

旭川駅から宗谷岬を目指すサイクリングイベント。参加者は、大自然の景観、地元グルメ、地域住民との交流等も体験しながら4日間で約315kmを走り抜ける。

・レンタサイクルの充実

稚内市だけでなく、旭川市・名寄市・中川町・利尻島の各拠点でレンタサイクルも充実させており、地域連携による乗り捨てサービスも検討している。

・利尻島におけるサイクルツーリズムの取組

全島規模でサイクルオアシスを設置し、安心してサイクリングを楽しめる環境が整備されている。『利尻島一周ふれあいサイクリング』はR7で35回目の開催となる。

【ナショナルサイクルルートに向けた取組】

・きた北海道サイクルツーリズムシンポジウム

ナショナルサイクルルート指定を目指し、町村の各首長とともに有識者の講演やパネルディスカッションなどの様々なプログラムを開催している。

・“道北版スイスモビリティ”実現へ向けた様々な挑戦

モニターツアーの実施や旅行会社へのPRを通じて、サイクルトレインの実証実験や、サイクルバスを活用した旅行商品の造成を実現している。

・サイクルツーリズム先進地台湾からの有識者招聘及び現地視察

R6年9月は、台湾の自転車関係者招聘によるルート試走や意見交換を実施。R7年2月は、台湾のサイクリスト受入体制及びおもてなしの調査研究のための視察を実施。

【今後に向けた方向性(提案内容を含む)】

・今後に向けた方向性

上川地区：音威子府バイパス開通に合わせて、車両通行量が減る国道40号にて、サイクル利用推進にかかる新たな魅了創出の検討を行う。

宗谷地区：スイス・モビリティのような公共交通機関と自転車利用による広域周遊観光の実現と共に、環境にやさしい持続可能な観光を目指す。

・(提案) 広域連携による“Hokkaido Velo”

各ルート協議会にはシーニックバイウェイの関係者が多くことから、シーニックバイウェイ指定ルートとサイクルルートを結びつけることで、5,000kmの総距離を誇る“Hokkaido Velo”の実現を図る。(ヨーロッパ全土を結ぶ長距離自転車ルート網“Euro Velo”を参考にする)

意見交換会概要

(3) 議事概要

④意見交換 アドバイザリー会議委員・参加者より試走の所感等について

●高橋委員長



【試走の所感】

まずは、今回の視察をご準備いただいた、きた北海道ルートの皆様と関係者の方々に感謝を申し上げたい。

数年前の試走会で指摘されていた点を、関係者の皆様の協力により、走行環境整備や無電柱化を含めて大幅に改善していると感じた。

走行環境においては、特に現在の幅員拡幅工事が完了すると、かなり走りやすくなるのだろうという印象を受ける。白い道は坂道ではあるが、e-bikeを活用することで、走行環境に関わらず景色を楽しめるように整備されていた。また、**情報提供については、キロ数から時間数へ変換することができる、より快適になる。**

ホテルも拠点になると改めて感じた。サイクリストには着替える場所が必要になるが、**今回のホテルでは着替え場所の提供を断られてしまった。観光全体として自転車を受け入れていく必要がある。**

BASE SOYAで見せていただいたグッズは素晴らしかった。思い出を持ち帰ることも、ルートの魅力拡大に繋がるため、ぜひアイデアがさらに広がることを祈っている。

その他として、**個別の地域や各ルートの課題を、全体で考えることが必要**になる。例えばインバウンドが増加している一方で、**具体的に何に困っているかや、どういったPRを展開するかを皆さんで議論する時間があったも良い。**

最後に、今回の試走ルートである白い道は、人が作って、自然の中に溶け込んだアートであった。人を動かすのはロジックではなく感動であり、「また来たいな」と思わせる白い道の魅力が、これからもどんどん増えることを願っている。

●加藤委員

【試走の所感】

私自身は60キロや50キロのコースを毎年走行している一方で、それらは一生懸命走らなければいけない距離であった。それに比べると、昨日走った距離は約27キロであったが、一般の方にとっては丁度良い距離であった。

いままで生きてきて、素晴らしい道路にも出会い、しまなみ海道にも感動したが、昨日走ったルートが人生において一番感動した。

それは非日常であり、芸術であり、本当に感動した。これを**利尻富士や夕焼けも含めることで、1つのパッケージになると考える。**

一方で**ホテルの方の対応が冷たい印象を受けた。**試走会に参加されている方たちは、道路整備によって走行環境の改善に努めている一方で、地域の人たちにとっては、他人ごとである現実もある。そのため、**地域の人たちを巻き込み、整備を進める必要がある。**

全国的には自転車の需要が減っており、自転車に乗らない子供や学生も多く、大人でも自転車に乗れない人が増えている。地元の青年会議所や商工会議所等が主体となって、子供が自転車に乗るための活動することで、地域で自転車を受け入れる環境が整う。その際に、**白い道を含めた今回のルートは、子供が走ることができる距離**であるため、**自転車の魅力を体験するのにぴったり**である。

繰り返しにはなるが、本当に感動する視察であったため、ぜひ再び走行したいと考えている。



意見交換会概要

(3) 議事概要

④意見交換 アドバイザリー会議委員・参加者より試走の所感等について

●萩原委員



【試走の所感】

現在、新千歳空港では30機ほどの国際線が着陸しており、私自身も韓国行きや台湾行きのフライトに乗ったことがある。一方で、日本人はほとんど乗っておらず、外国人が往路も復路も大多数を占めていた。さらに今冬には就航便数が増えるといわれており、北海道はとにかく人気であると言える。

そのためお金を持っている人を相手にすることは、大切なのではないかと思う。実際、一泊5万円程度の宿泊施設を利用する例も多く、レンタカーもアルファードなどの高級車が選ばれている。

一方で、稚内までは高速道路が繋がっていないのが現状である。外国人からすると、一般道を6時間走行するのは簡単なことではない。それに比べると、ニセコや旭川は高速道路が繋がっており、外国人も容易に行ける環境が整っている。

そのため、現実的に稚内へ外国人観光客を誘客するためには、新千歳空港から稚内空港へ飛行機で移動しようと思える魅力が必要になると言える。

冬であれば、寒い中で自転車を乗ったり、流氷の上を走行したり、山を登ったりするアクティビティを活用して、通年で観光客を呼べるような整備が必要になる。

●宮内委員

【試走の所感】

安全で魅力的なルートがあり、e-bikeを含むレンタサイクルが多数用意されており、ガイド人材も確保されている。さらに、アクティブバスの導入によりワンウェイのサイクリングが可能になっている。これらが揃って初めて、45人規模のツアーが成立するため、インフラが一定レベルに達している証明だと言える。

また、駅舎に直結した道の駅をゲートウェイとして活用している点も非常に珍しく、全国でも数例しかない。駅舎内にレンタサイクル拠点があるのは誇れることである。観光案内所、ロッカー、自販機、トイレ、コンビニなどが一体となったワンストップサービスも非常に便利であると感じる。

景観面では、白い道が特に印象的だった。世界にはイタリアやフランスなどの白い道があるが、宗谷の白い道は貝殻を砕いて舗装されたもので、白色度では世界一ではないかと思う。周氷河地形との組み合わせによるダイナミックな景観も素晴らしい。また、日本最北端である宗谷岬へ向かうというストーリー性や達成感も含めて、素晴らしいかった。

一方で課題として、きた北海道ルートと地域ルートの関係性が資料上で明示されておらず、利用者にとって分かりづらい構成になっている点がある。標識や表示も視認性に欠ける部分があり、ステッカーのみならず、必要に応じて支柱の設置なども検討すべきである。

また、海外向けのPRについても、ガイドブックによって掲載状況に差があり、北海道と連携して戦略的な情報発信が必要だと感じた。



意見交換会概要

(3) 議事概要

④意見交換 アドバイザリー会議委員・参加者より試走の所感等について

●屋井委員



【試走の所感】

今回の試走は、大変多くの方々のご尽力によって実現したものであり、まずは心より御礼申し上げます。

白い道に入ってからには電動マウンテンバイクの性能が際立ち、楽に登ることができた。途中で写真を撮ったり、景色を振り返ったりする余裕もあり、感動的な風景を存分に堪能した。高橋先生がおっしゃったように、白い道はまさに「アート」だと感じた。

路面は決して良いとは言えないが、マウンテンバイクなら気にならずに楽しむこともできた。東京方面では路肩が危険なことも多いが、**今回のルートでは広く整備されており、自転車にとって理想的な環境**であった。

白い道とアスファルトの道が一体となって岬まで続くルートは、地域ルートでありながら、訪れたら必ず通りたいと思わせる魅力があった。

また現在、国として車道走行を原則とする方針が示されているが、都市部では整備が不十分な箇所も多い。結果として、自転車利用の減少につながっている面もある。だからこそ、サイクルツーリズムのような「楽しむ」場面が、自転車人口の回復に向けた牽引役になるのではないかと感じている。その際に、**北海道の交通量の少なさは魅力になり得るし、もっとPRすべき**である。

私は無電柱化の推進計画にも関わっているが、**北海道などの景観が重要な地域では、共同溝方式だけでなく、簡易的な方法でも景観改善が可能**である。電力会社や通信会社との協力を得ながら、地域に合った柔軟な整備が進むことを期待している。

今回の試走を通じて、北海道が自転車環境の先頭を走っていることを改めて実感した。今後もこの魅力を全国に発信していただければと思う。

●吉井委員

【試走の所感】

他の先生方はクロスバイクで走られているようだが、私はママチャリライダーとして参加していたので、その視点から感じたことを少しお話しさせていただきたい。

まず、昨日のコースはとても良かった。特に白い道以降の区間は、路面も整っていて安心して走ることができた。一方で、ママチャリで国道を走るのは正直怖いと感じている。愛媛県では「思いやり1.5m運動」が推奨されているが、**昨日も中央線を越えずにギリギリで抜けていく車が多く、非常に緊張していた。**

場合によっては歩道を走ってもいいというルールがあると、ママチャリライダーにはありがたいと感じる。昨日も歩道を走っていた方が何人かいらっしゃったが、そうした柔軟な対応が必要だと思った。

また、昨日の上り坂ではマラソンに似た苦しさであったが、一方でゴールをすると達成感があった。私も以前マラソンを走っていたことがあり、参加費が高いと思いながらも、走り終わるとまた走りたくなった。自転車も同じで、登り切った時の満足感は大きいと思う。

しかし、マラソンには「サブ4」などの明確な目標があるが、自転車にはそうした基準が少ないように感じている。現状では「何キロ走ったか」が目安になっていると思うが、ママチャリで100キロは現実的ではなく、20キロくらいでも十分達成感がある。そのため、**距離に応じたルート設定や達成基準があると、リピーターも増えるのではないかと**思う。

昨日は本当に楽しく走ることができた。改めて、感謝を申し上げます。



意見交換会概要

(3) 議事概要

④意見交換 アドバイザリー会議委員・参加者より試走の所感等について

●石狩川流域圏ルート協議会 渡辺氏



【ルートの活動】

石狩川流域圏ルートでは平成30年以降は毎年走行会を開催している。R5年には、新千歳空港からエスコンフィールドまでのルートを対象に走行会を実施したが、**新千歳空港に自転車の組み立て場所がないという課題**が明らかになった。

現地調査を重ねた結果、本年度には空港内に3カ所（国内線2カ所、国際線1カ所）の組み立てスペースを設置を実現した。今後の課題としては、ルートに急な勾配や危険箇所があるため、より安全で快適なルートの整備に向けて検討を進めていく予定である。

●石狩川流域圏ルート協議会 太田氏

【試走の所感】

安全に絶景を見ながら走れることや、電動自転車の貸出台数に関心した。下り坂も舗装路が安定しており、存分に楽しむことができた。

一方でwebサイトでは、**必要な情報を十分に得ることができなかった**。ルート的高低差や、レンタサイクルの車種等の記載があるとより良い。また現地で過ごすための情報や、女性向けの情報の少なさも感じた。

そのため女性や子供、家族連れでも来たいと思えるような情報発信も含めて、議論を進めていただければと思う。



●北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会 爲廣氏



【試走の所感】

昨日は大変すばらしいルートを走らせていただき、少し羨ましいなと思うほどであった。一方で、観光客に来ていただく目標を持つのであれば、**子供や地域の人たちがたくさん乗るための文化をつくる必要がある**。それらの積み重ねにより、走行環境や受入環境が整備されていくと考える。

また、私が自転車に関わってから約23年経つが、関係者の新陳代謝が進んでいないように感じる。ルート協議会の後継者問題についても、これから協議していく必要があると感じている。

●オホーツクルート協議会 渡部氏

【試走の所感】

今回の試走では、アシスト無し自転車による走行の苦労もあり、感動の思い出となった。

ホテルの受入環境についてだが、北見の東横インでは、自転車を部屋に持ち込めるサービスをしていただいている。ルート協議会側も、サイクリストに対しても東横インのサービスを紹介しており、Win-Winの状態である。

ホテルの受入環境改善においても、お互いがメリットのあるような提案をすることで、整備が進むのだろうと思う。



意見交換会概要

(3) 議事概要

④意見交換 アドバイザリー会議委員・参加者 より試走の所感等について

●オロロンライン・サイクルルート連絡会議 佐藤氏



【試走の所感】

オロロンラインでは、関係機関や地域の皆様と連携しながら、今年で3年目となる点検会を実施している。**地域の状況や全国の動向を踏まえつつ、まだ十分に整備されていない海沿いのガイドの育成にも取り組んでいる。**

「Hokkaido Velo」の提案には大変感動した。これは「てっぺんライド」の延長線上にあるとも言えるもので、オロロンラインや石狩川流域圏ルート、石狩北部・増毛サイクルルートと連携し、Hokkaido Veloの前段階となるモデルルートが構築できるのではと考えている。ぜひ取り組ませていただきたい。

●オロロンライン・サイクルルート連絡会議 炭谷氏



【試走の所感】

昨日走らせていただいたが、本当に素晴らしいルートだと感じた。額に入った一つのアートによろしくであったし、稚内の誇る自然の中を自転車で走れたことに喜びを感じた。

オロロンラインも、よく見るとアートになり得る箇所が多くある。それらを、**地域ルートの中でいかに展開していけるかという点において、宗谷ルートの施策は非常に参考となった。**

●道南サイクルツーリズム推進協議会 栗山氏



【試走の所感】

昨日の試走では、宗谷地域ならではの空気感や風を感じることができた。また、**1.5mへの路肩拡張は、サイクリストに大きな安心感をもたらす。****全道的に、この取り組みが広がることを祈ってる。**

最長のルートをもつ、どうなんルートとしては、走行環境や受入環境の改善に取り組んでいる。一方で、きた北海道ルートと関わらせていただくうえで、道南地域はまだまだやれること、やるべきことがあると感じた。

【主なご意見】

- ・走行環境時の情報提供についてはキロ数から時間数へ変換することができるとより快適になる。
- ・委員が使用した空港・ホテル等での着替えなど受入環境が未整備であり、観光全体でサイクリストの受入設計が必要である。
- ・「きた北海道ルート」と「稚内フットパスであるてっぺんコース」との関係が不明確であり、ルートマップに両者の関係性を記載する等の工夫が必要である。
- ・課題の共有と全道的な議論の場が不足しており、個別課題を全体で検討する時間を次回会議で確保すべき。
⇒【対応方針】本会議において各協議会における課題を共有し議論を行う。